



# スクール「メキシコ2010」

2013年以降の気候変動新枠組み交渉合意に向けたシリーズ勉強会

## 第3回：2010年気候変動国際交渉におけるSB32

WWFジャパン 小西雅子（2010年5月開催）

制作：WWFジャパン 気候変動プログラム  
2010年2月～2010年12月

[http://www.wwf.or.jp/climate/  
climatechange@wwf.or.jp](http://www.wwf.or.jp/climate/climatechange@wwf.or.jp)



for a living planet®

第3回スクール・メキシコ  
「2010年気候変動国際交渉における資金メカニズムまとめ」  
WWF ジャパン 小西雅子  
2010年5月20日

## 「2010年気候変動国際交渉における 資金メカニズムのまとめ」

小西雅子  
2010年5月20日

### 1. High Level Advisory Group on Climate Finance (気候変動の資金に関するハイレベルアドバイザリーグループ)

- ▶ コペンハーゲン最後に、イギリス・ブラウン首相が提案。国連バンキムン事務局長のリードで、2月8日に正式に発足。メンバー19人、イギリスブラウン首相（5月の政権交代でキャメロン首相【保守党】に交代したが、AGF議長を降りるかどうか不明）と、エチオピアのメレス首相が共同議長、ガイアナ共和国のジャグデオ大統領、ノルウェーのストルテンベルグ首相、その他ニコラス・スターン、ジョージ・ソロスなど実務家、有識者、中央銀行などから参加、日本からは西村六善・内閣官邸参加が参加。
- ▶ メンバー

#### Heads of State and Government

- Meles Zenawi, Prime Minister of the Federal Democratic Republic of Ethiopia (Co-Chair)
- Gordon Brown, Prime Minister of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland (Co-Chair) 【政権交代後、交代との知らせ】
- Bharrat Jagdeo, President of the Republic of Guyana
- Jens Stoltenberg, Prime Minister of Norway

#### Other members (in alphabetical order)

- Ambassador Pedro Luiz Carneiro de Mendonça, Under-Secretary General for Economic and Technological Affairs, Ministry of External Relations, Brazil
- Soumaïla Cissé, President, Commission of the West African Monetary Union
- Ernesto Cordero Arroyo, Minister of Finance, Mexico
- Donald Kaberuka, President, African Development Bank
- Caio Koch-Weser, Vice-Chairman, Deutsche Bank Group



for a living planet®

第3回スクール・メキシコ  
「2010年気候変動国際交渉における資金メカニズムまとめ」  
WWF ジャパン 小西雅子  
2010年5月20日

- Jean-Pierre Landau, Second Deputy Governor, Bank of France
- Trevor Manuel, Minister in the Presidency for National Planning, South Africa
- Bob McMullan, Member of Parliament and Parliamentary Secretary for International Development Assistance, Australia
- Mutsuyoshi Nishimura, Special Adviser to the Cabinet Office, Government of Japan
- Tharman Shanmugaratnam, Minister for Finance, Singapore
- Lawrence H. Summers, Director of the National Economic Council and Assistant to the President for Economic Policy, United States of America
- Montek Singh Ahluwalia, Deputy Chairman, Planning Commission, Government of India
- George Soros, Chairman, Soros Fund Management
- Nicholas Stern, Professor of Economics and Government, London School of Economics
- Zhu Guangyao, Assistant Minister, Ministry of Finance, People's Republic of China

(Source: Secretary-General Names Members of High-Level Advisory Group on Mobilizing Climate Change Resources)

<http://www.un.org/News/Press/docs/2010/sga1223.doc.htm>

- ▶ HLAG(現在は AGF と呼ばれる)のミッションは、途上国への短気(2012年まで)と長期の資金供与の実質的な提案を出すこと。また2020年に1000億ドルを動員するための公的、民間利用の双方で新規で革新的な資金源をスタートする道も探る。
- ▶ バンキムン事務総長は、AGFは、あくまでも材料を提供する場であり、交渉の場ではないことを幾度も強調したという。また参加メンバーは、国を代表して発言することは許されておらず、あくまでもニュートラルな立場。専門家、実務家として、オプションを出し、その長所、短所をあげて、国連の交渉の場で検討するための提案を出すことを目的とする。
- ▶ 6月SBに最初のリポートを提出することになっている。現在政府の実務メンバーが執筆中らしい。
- ▶ メキシコ・カンクン COP16で、検討されるべく、最終オプション案リポートを提出予定。今のところ各締約国に検討する時間を持ってもらうた



WWF for a living planet®

第3回スクール・メキシコ  
「2010年気候変動国際交渉における資金メカニズムまとめ」  
WWF ジャパン 小西雅子  
2010年5月20日

- め、秋には出す予定
- 第一回会合が3月31日イギリスで開催された。
    - 3つのワーキンググループに分かれて議論
      1. 気候変動と非気候変動関連からの新規で追加的な公的資金源
      2. カーボンマーケットを含む民間資金と多国間組織の役割
      3. ガバナンス（資金の配分と計測、それに定義）
  - 第2回会合は5月予定（6月SB前）（各WGからリポートを受け取り最初のリポートに統合、資金の配分メカニズムとMRVについて議論）第3回会合は7月か8月（UNFCCCからのコメント検討、最終リポート進展）、第4回会合は9月か10月（バックグランドペーパーレビュー、最終リポートへの最終ステップ）
  - 事務局がバックグランドペーパーを用意
    1. 資金の形と資金源の関係：①公的資金、②カーボンマーケット、③国際資金メカニズム
    2. 可能性のある資金源；
      - ① 公的資金：AAUオークション、国内ETSオークション収入からの拠出、炭素税、国際航空船舶税、オフセット税（CDMなどKMから）、二国間・多国間援助、国際金融取引税（トービン税）
      - ② カーボンマーケット
      - ③ 国連システム、I F I s：IMF (Special Drawing Rights—SDRs), Debt for clean energy swap
      - ④ 民間資金を流れるようにてこ入れする公的資金の役割
    3. 予測される資金額

(source: AGF Secretariat Background paper)

★ CAの中で最も重視されるのは資金であろう。その中で、AGFは、2020年に1000億ドルを動員するための長期の革新的な資金源についてUNFCCCに提言する立場で、2010年度の国際交渉の中で、注視すべき一つ。メンバーが国際金融機関と、開発と気候変動双方の有識者で構成されており、実際に資金を取り扱う機関が議論する実務的な提案となるだろう。緩和と適応の開発度に応じた様々な資金の形をマッチングする資金源を検討することになっている。民間直接投資のてこ入れや、カーボンマーケットなどの活用が主眼となってくるのではないかと思うが、革新的な資金メカ提案のどれに力を入れるのか、どこ



for a living planet®

まで具体的に踏み込めるのか、などが注目される。

★ 実質的にメキシコ・カンクン COP16においては、大枠の合意は困難との見方が広がる中、短期資金は直接国連の交渉で進めて、長期の資金源について、ある程度の合意に達したいというのが、実質的な進展であろう。

★ ちなみに、資金を実質的に緩和や適応に配分していく資金組織については、国連交渉にゆだねられている模様。今回のSB32においても、AWGLCA議長がもっとも集中して議論する焦点となっている。短期資金と資金を管理する組織について、実質的に交渉を前進させる。資金を配分するに当たって、途上国の削減行動の登録（国際的は約束への実質的な代替）と、削減量のMRV手法を確立することによって、実質的な途上国の削減を確保できることになるので、資金の交渉と議論を突破口に硬直している先進国と途上国の削減議論を前進させることができる。

★ そして、カンクンにおいて、長期の資金源の目処をつけることによって、NAMAの登録、及びNAMAと資金双方のMRV手法確立と合わせて、実質的な世界全体の削減を確保する道

#### 4. 1. 国際通貨取引税に関する動き

##### Leading group on innovative financing for development

- 59のメンバー国と国際機関、NGOが参加する国際金融取引税を途上国の開発援助のために進めるリーディンググループ
- 日本では、寺島実郎さんを中心に、議員と「国際連帯税推進協議会」が昨年より発足しており、外務・環境・財務がオブザーバー参加している。
- 2010年11月を目処に、上記リーディンググループの次期総会を日本がホストすることが決定され、外務省が他省庁に協力を呼びかけて開催することとなった。岡田外務大臣などが積極的と伝えられる。
- 日本政府から国際通貨取引税が革新的資金メカニズム提案として発信される可能性は低いように思うが、上記協議会から、8月末を目処に、最終報告が発表される。